

基山町議会
議長 品川義則様

総務文教常任委員会
委員長 栗野久明

所管事務調査報告

本委員会は、所管事務の調査を終了したので、その結果を報告します。

記

1 調査事項並びに調査期日

(1) 若基小学校の現状について(令和2年5月19日)

- ①休校の影響を受けての学習進捗の状況等について
- ②新型コロナウイルス感染症予防対策について
- ③児童の状況及び施設設備等について
(若基小学校への現地視察)

2 調査結果

若基小学校において、上記の3点を主目的とし授業参観及び現地調査を行い、その後、教育長、教育学習課長、指導主事、若基小学校教職員(校長、教頭、指導教諭)及び基山小学校校長との意見交換を行った。

令和2年度は、通常学級が6年生のみ2学級の7学級、児童数233名(特別支援学級は8学級、児童数32名)で、学校規模としては11学級以下の小規模校に属する。

町内の小中学校では新型コロナウイルス感染症予防対策として、校区ごとに3分割した地区別分散登校を3回実施し、定期的な児童生徒への学習面や心のケア等へ配慮されていた。

授業参観では、マスクを付けた児童たちが通常通りの授業を受けている様子が見え、説明では児童の机は通常の間隔より距離を広くとっているとのことだが、限られた教室内で密集している感じは否めなかった。換気に関しては、窓を開け、校舎が高台にあるためか風も通り、十分配慮されていた。

まず、臨時休校における授業日数の確保に問題ないか質したところ、現時点では約1、2週間分の遅れが出ているので、夏季休業短縮等による標準日数の確保に努めていく。今後の不測の事態も鑑み、学校行事の短縮、延期、削減のほか、上乘せ補充授業を予定し、可能な限り授業時数の確保と質の向上に努めていくとの説明を受けた。また、学習環境の変化により疲れを感じてきている児童も散見する。心の問題に起因する不登校やいじめ対策にも十分配慮していきたいとの説明を受けた。

次に、町内での校区見直しや学校規模の適正化について質したところ、3月に開催した総合教育会議において、若基小学校のことについて話し合いを行った。小規模校としての利点もあるが、今後の対策として本年度中に通学区域審議会の立ち上げを検討している。校区の見直しは非常に難しいので方策の一つとして、他自治体でも導入実績のある小規模特認校の導入も視野に入れて取り組んでいきたい。今回実施するトイレの洋式化など、若基小独自の魅力を高めていきたい。また、小規模特認校に関する保護者アンケートなども実施していきたいとの説明を受けた。

当委員会としては、コロナ禍において日々情報が錯綜する中、教職員の方々も児童の健康管理、衛生面への配慮、計画立案に非常に苦労されていると思うが、今後、最大限授業日数の確保に努めること、マスク着用による脱水症状などが発生しないよう健康管理に配慮すること、校舎等の整備を含め魅力ある校風づくりに努めるとともに、学校規模の適正化を図っていき、学習環境及び学力向上と教育行政の充実を図っていくよう提案した。